

理研会報

発行日：平成28年3月4日
号数：No. 378
発行：印旛地区教育研究会理科研究部
HP：http://rikainba.com
メール：rikainba@yahoo.co.jp



平成27年11月1日2日に千葉市の各会場で第65次千葉県教育研究集会が行われました。印旛からは夏の印教研で小学校3部会、中学校4部会が推薦され、浅野先生（八街北中学校）、佐久間先生（八街南中学校）、根本先生（原山小学校）、芝入（旧姓菅原）先生（原小学校）の4名が研究発表を行いました。その結果小学校、中学校ともにサブレポートとして全国教研に参加することになりました。



今年の全国教研は2月5日～7日に岩手県を会場に実施されました。今回の理研会報では、全国教研に参加した先生方からの感想等を掲載いたします。

八街市立北中学校

浅野 祐一 先生

2016年2月5日から7日の3日間、岩手県で開催された第65次教育研究全国集会（全国教研）に参加しました。全国から、小中高合わせて26本の提案があり、各都道府県の地域性を生かした研究発表がなされ、そして、それぞれが抱える課題がありました。3日間の討議の中で、主として話し合われたことは「科学技術の功罪をどのように子どもに伝え、どのように正しい判断力を培うか」でした。討議を通して感じたことは、我々理科教員は、科学の光の部分だけでなく、目を背けがちな陰の部分も合わせて伝える必要性あるということでした。科学が加速度的に進む現代では、便利さやきれいさが優先されがちですが、命を食品にする技術があるということ、生物工学発展の先に、生命倫理の問題があるということ、授業を通して伝えられる唯一の

存在が、我々なのだと感じました。子どもたちが、将来そのような問題を考えるときに、判断材料にするのは、我々が今教えている理科の知識なのだと思います。

全国教研に参加したことで、科学を学び、科学分野を教える者として、理科教育の使命と意義を強く感じることができました。そのためには、常に公平な視点で、知識を蓄え続け、正しく伝える姿勢を持つことが大切だと思いました。

最後に、全国教研に参加するにあたり、ご指導・ご協力いただきました多くの先生方、印旛郡理科研究部の皆様、暖かく送り出してくださった第4部会の方々に心より感謝申し上げます。



印西市立原小学校

芝入 彩香 先生

(旧姓 菅原先生)

2月5日から7日までの3日間、岩手県で行われた全国教研に参加させていただきました。全国教研では、小学校だけでなく、中学校、高校で行っている様々な実践についても聞くことができ、大変興味深く感じました。

提案の内容としては、見えないものを見せたり、実際に触らせたりすることで児童の理解を深めようというものが多く提案されていました。しかし、共同研究者の先生



から、理科の学習において実物に触れるということは大事なことであり、実物

を見れば必ず理解が深まるというわけではないという話がなされていました。私自身も、実物を使った教具があればわかりやすくなるだろうと考えていましたが、それが子どもたちに本当に必要なものであるか考える必要があることに気付かされました。そして、子どもの主体性を大事にすることで、互いの意見を聞き合い、よりよい解決法を見つけようと学び合うようになるのだと認識を改めることができました。

今回の全国教研を通して、「なぜだろう」、「どうしてそうなるのだろう」という疑問が自然と湧き出すような事象と出会わせることが大切であるということを知りました。ここまで支援してくださった皆様に感謝いたしますとともに、今回学んだことを生かしてこれからも頑張っていきたいと思っています。



2月12日(金)に成田小学校にて第3回役員会と第2回研究員集会が行われました。役員会では今年度の活動報告や来年度の事業計画などが審議されました。また、玉造中学校の2年生の論文が日本学生科学賞全国最終審査に参加し、旭化成賞を受賞したことも含み、その報告もあわせて行いました。

引き続き小学校、中学校にわかれ、研究員集会が行われました。中学校は、北総教育事務所主席指導主事 静間慎一先生、小学校は富里市教育委員会学校教育課主幹 古谷 成司先生講師にご指導をいただきました。来年度の研究主題や研究計画などが各部会から提案され、研究の方向性について、参加された先生方からいろいろなご意見をいただきました。各部会で今回の研究員集会を受けてさらに検討し、研究を進めていただきたいと思います。なお、次回の研究員集会は今年度同様6月上旬を予定しておりますので、夏の印教研集会での発表の中間報告ができるように見通しを持った活動をお願いいたします。

(写真は研究員集会の様子 右上は中学校 右下は小学校)

